

2023年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II部		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	生理学V	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	溝口 博之	実務経験	有・ 無	時間数	30
学修内容	腎の機能と尿の生成、内分泌腺の機能、生殖器の役割について、その重要性の上から基本事項を修得し、機能発現のシステムを理解する。				
到達目標	国家試験合格水準を単位取得のラインとし、最低線の目標とする。器官・組織の関係性から人体の機能を論理的に解釈し、病理学や、臨床医学へ繋げる。				
成績評価	期末テスト（約80点相当）と授業期間中に行う数回の小テスト・出席（約20点）とで可否を判断する。				
使用教材	生理学教科者（南江堂） トートラ／佐伯他 訳：人体解剖生理学原書第10版（丸善出版、2017年刊） 坂井他 訳：人体の正常構造と機能第3版（日本医事新報社、2017年刊） 石川他 訳：ガイトン生理学 原著第13版（エルゼビア・ジャパン株式会社、2018年刊）				
留意点	授業内容に関連した問題をだしたり、小テスト、レポート提出を行ったりする。 出席、授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 授業で使った配布資料を復習することもあるので、なるべく持参すること。				

回数	授業計画
第1回	生理学基礎（物質の移動、体液の区分、pH）、ホルモン、ホメオスタシス
第2回	尿の生成と排泄：腎臓の作用、糸球体ろ過量
第3回	尿の生成と排泄：尿細管・集合管の特徴、クリアランス、pH調節、
第4回	尿の生成と排泄：腎血流量、排尿
第5回	尿の生成と排泄：腎臓による体液の調節
第6回	内分泌：ホルモンの特性、分類、受容体、視床下部-下垂体系
第7回	内分泌：甲状腺ホルモン
第8回	内分泌：副腎皮質ホルモン
第9回	内分泌：副腎髄質ホルモン
第10回	内分泌：膵臓のホルモン
第11回	生殖：性分化、生殖器
第12回	生殖：性周期
第13回	生殖：生殖器系のホルモン
第14回	生殖：妊娠、胎盤
第15回	全範囲復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	運動学 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	中野 隆	実務経験	無	時間数	30
学修内容	運動器系の構造と機能を統括的に学び、その意義を理解する				
到達目標	運動器の機能を系統的に理解し、医学用語によって正確に説明することができる 運動器系の構造と機能を結び付けて説明できる 解剖学、運動学、臨床医学（整形外科学、神経内科学）の知識を統合し、説明できる				
成績評価	定期試験で評価する（100%）				
使用教材	コメディカルのための運動学サブノート 運動器の機能解剖 プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） 機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス） 骨学のすゝめ（南江堂）				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	上肢および下肢の体表解剖、運動学総論
第 2 回	運動学総論
第 3 回	上肢の運動・上肢帯の運動
第 4 回	上肢の運動・肘関節および前腕の運動 1
第 5 回	上肢の運動・肘関節および前腕の運動 2
第 6 回	上肢の運動・手関節および手の運動 1
第 7 回	上肢の運動・手関節および手の運動 2
第 8 回	上肢の運動・上肢への脊髄神経
第 9 回	下肢の運動・下支帯の運動
第 10 回	下肢の運動・膝関節 1
第 11 回	下肢の運動・膝関節 2
第 12 回	下肢の運動・下肢の二関節筋
第 13 回	下肢の運動・足の運動
第 14 回	下肢の運動・下肢への脊髄神経
第 15 回	体幹の運動・椎骨の連結

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	運動学Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	中野 隆	実務経験	無	時間数	30
学修内容	運動器系の構造と機能を統括的に学び、その意義を理解する				
到達目標	運動器の機能を系統的に理解し、医学用語によって正確に説明することができる 運動器系の構造と機能を結び付けて説明できる 解剖学、運動学、臨床医学（整形外科学、神経内科学）の知識を統合し、説明できる				
成績評価	定期試験で評価する（100%）				
使用教材	コメディカルのための運動学サブノート 運動器の機能解剖 プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） 機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス） 骨学のすゝめ（南江堂）				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	体幹の運動・頸椎の運動 1
第 2 回	前期定期試験の結果と試験問題の解説 その他
第 3 回	体幹の運動・頸椎の運動 2
第 4 回	体幹の運動・胸椎および胸郭の運動
第 5 回	体幹の運動・腰椎の運動 1
第 6 回	体幹の運動・胸椎の運動 2
第 7 回	姿勢
第 8 回	歩行
第 9 回	反射
第 10 回	運動神経伝導路
第 11 回	運動神経伝導路
第 12 回	運動神経伝導路
第 13 回	運動神経伝導路
第 14 回	運動麻痺・運動失調
第 15 回	不随意運動

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	生理学VI	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	溝口 博之	実務経験	有・ 無	時間数	30
学修内容	高齢者および競技者にみられる生理学的特徴・変化を学習する。				
到達目標	高齢者にみられる生理学的変化を器官ごとに専門用語を用いて説明できる。 高齢者の歩行機能について専門用語を用いて説明できる。 小児期から青年期の発達曲線が専門用語を用いて説明できる。 トレーニングによる筋・心肺機能の変化が専門用語を用いて説明できる。 トレーニングによる姿勢調節能力の変化が専門用語を用いて説明できる。				
成績評価	期末テスト（約 80 点相当）と授業期間中に行う数回の小テスト・出席（約 20 点）とで合否を判断する。				
使用教材	生理学教科者（南江堂） トートラ／佐伯他 訳：人体解剖生理学原書第 10 版（丸善出版、2017 年刊） 坂井他 訳：人体の正常構造と機能第 3 版（日本医事新報社、2017 年刊） 石川他 訳：ガイトン生理学 原著第 13 版（エルゼビア・ジャパン株式会社、2018 年刊）				
留意点	30 時間の内訳は「高齢者の生理学的特徴・変化」で 15 時間、「競技者の生理学的特徴・変化」で 15 時間とし、最近の知見を盛り込み実施する。高齢者や競技者の生理学的特徴を理解するには、生理学基礎の理解が必要であるため、これまでに学んだ I～V の内容の復習も兼ねて授業を行う。				

回 数	授業計画
第 1 回	【高齢者】細胞の加齢現象
第 2 回	【高齢者】細胞内小器官の変化
第 3 回	【高齢者】神経の変化
第 4 回	【高齢者】運動器系の変化
第 5 回	【高齢者】感覚器系の変化
第 6 回	【高齢者】循環器系・呼吸器系・消化器系・皮膚の変化
第 7 回	【高齢者】高齢者に多い疾患・障害
第 8 回	【高齢者】運動と加齢 【競技者】小児期から青年期の発達曲線
第 9 回	【競技者】小児期から青年期の発育の特徴
第 10 回	【競技者】小児期から青年期の呼吸循環系機能と運動
第 11 回	【競技者】発育期の運動不足・過運動の影響
第 12 回	【競技者】運動の発達と習熟
第 13 回	【競技者】トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化
第 14 回	【競技者】トレーニングによる神経機構の変化・姿勢調節能力の変化
第 15 回	【競技者】眼球運動と姿勢制御

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	病理学概論 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	楠本 高紀	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な病理学の知識を修得する。 疾病の本態を探求する病理学の概念を知り、疾病の発生機序と分類、それによってもたらされる病態の概要を学ぶ。				
到達目標	疾病に関する知識を深め、疾病の経過、予後、転帰を理解する。 細胞障害、循環障害、進行性病変、炎症の理解を深める。				
成績評価	定期試験、出席率、態度などを勘案して評価する。				
使用教材	病理学概論：公益社団法人全国柔道整復学校協会版（医歯薬出版） 授業時の配布資料				
留意点	出席率の評価は本校の生徒便覧の記載に準拠するが、授業については全出席すること基本と思慮するため、欠席しがちの生徒には指導するので心がけておくこと。				

回 数	授業計画
第 1 回	病理学概論
第 2 回	疾病の一般
第 3 回	退行性病変（1）
第 4 回	退行性病変（2）
第 5 回	代謝障害（1）
第 6 回	代謝障害（2）
第 7 回	進行性病変（1）
第 8 回	進行性病変（2）
第 9 回	細胞、組織の適応（1）
第 10 回	細胞、組織の適応（2）
第 11 回	炎症総論（1）
第 12 回	炎症総論（2）
第 13 回	炎症各論（1）
第 14 回	炎症各論（2）
第 15 回	総まとめ

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	病理学概論Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	楠本 高紀	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な病理学の知識を修得する。 疾病の本態を探求する病理学の概念を知り、疾病の発生機序と分類、それによってもたらされる病態の概要を学ぶ。				
到達目標	疾病に関する知識を深め、疾病の経過、予後、転帰を理解する。 免疫異常、腫瘍、先天性奇形、病因に関する理解を深める。				
成績評価	定期試験、出席率、態度などを勘案して評価する。				
使用教材	病理学概論：公益社団法人全国柔道整復学校協会版（医歯薬出版） 授業時の配布資料				
留意点	出席率の評価は本校の生徒便覧の記載に準拠するが、授業については全出席すること基本と思慮するため、欠席しがちの生徒には指導するので心がけておくこと。				

回 数	授業計画
第 1 回	免疫総論
第 2 回	免疫各論（1）
第 3 回	免疫各論（2）
第 4 回	腫瘍総論（1）
第 5 回	腫瘍総論（2）
第 6 回	腫瘍各論（1）
第 7 回	腫瘍各論（2）
第 8 回	先天異常総論
第 9 回	先天異常各論
第 10 回	外因（1）
第 11 回	外因（2）
第 12 回	内因（1）
第 13 回	内因（2）
第 14 回	総まとめ
第 15 回	総まとめ（2）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	一般臨床 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	楠本 高紀	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な診察の基本を修得することができる。				
到達目標	1. 各診察の方法とその意義を修得することができる。 2. 症状・所見から柔道整復師が臨床現場で注意しなければならない事項を修得することができる。				
成績評価	定期試験、出席率、態度などを勘案して評価する。				
使用教材	一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会版（南江堂） 授業時の配布資料				
留意点	出席率の評価は本校の生徒便覧の記載に準拠するが、授業については全出席すること基本と思慮するため、欠席しがちの生徒には指導するので心がけておくこと。				

回 数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス、年間予定発表、診察概論（診察の意義、診察の進め方）
第 2 回	診察各論（医療面接、視診①）
第 3 回	〃 （視診②）
第 4 回	〃 （視診③）
第 5 回	〃 （視診④）
第 6 回	〃 （打診、聴診）
第 7 回	〃 （触診①）
第 8 回	〃 （触診②）
第 9 回	〃 （生命徴候、感覚検査）
第 10 回	〃 （反射検査①）
第 11 回	〃 （反射検査②）
第 12 回	〃 （代表的な臨床症状①）
第 13 回	〃 （代表的な臨床症状②）
第 14 回	〃 （代表的な臨床症状③）
第 15 回	〃 （検査法）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	一般臨床医学Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	舘正之	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な内科的知識を身に付ける。				
到達目標	国家試験合格に必要な知識を修得する。				
成績評価	定期試験および授業態度で評価。				
使用教材	一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）				
留意点					

回 数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス、講義予定説明
第 2 回	呼吸器疾患① 総論
第 3 回	呼吸器疾患② かぜ症候群～気胸
第 4 回	まとめ、小テスト
第 5 回	循環器疾患① 総論、うっ血性心不全、虚血性心疾患
第 6 回	循環器疾患② 心臓弁膜症、先天性心疾患
第 7 回	循環器疾患③ 高血圧症～不整脈
第 8 回	まとめ、小テスト
第 9 回	消化器疾患① 総論、食道炎～胃癌
第 10 回	消化器疾患② 潰瘍性大腸炎～腸閉塞
第 11 回	肝胆膵疾患① 急性肝炎～肝癌
第 12 回	肝胆膵疾患② 胆石症～腹膜炎
第 13 回	まとめ、小テスト
第 14 回	代謝疾患
第 15 回	まとめ、小テスト

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	一般臨床医学Ⅲ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	舘正之	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な内科的知識を身に付ける。				
到達目標	国家試験合格に必要な知識を習得する。				
成績評価	定期試験および授業態度で評価。				
使用教材	一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）				
留意点					

回 数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス、講義予定説明。内分泌疾患① 総論、下垂体疾患、甲状腺疾患
第 2 回	内分泌疾患② 副甲状腺疾患、副腎皮質疾患
第 3 回	まとめ 小テスト
第 4 回	血液・造血器疾患① 総論、赤血球疾患
第 5 回	血液・造血器疾患② 白血球疾患、リンパ系疾患、血漿蛋白異常症
第 6 回	まとめ 小テスト
第 7 回	腎・尿路疾患① 総論、腎不全、CKD、血液浄化療法 腎移植
第 8 回	腎・尿路疾患② 糸球体疾患、尿路感染症、泌尿器疾患
第 9 回	まとめ、小テスト
第 10 回	神経疾患① 総論、脳血管障害、腫瘍性疾患～筋疾患
第 11 回	神経疾患② パーキンソン病～筋疾患
第 12 回	まとめ、小テスト
第 13 回	リウマチ性疾患 総論、関節リウマチ～シェーグレン症候群
第 14 回	感染症 総論、AIDS、带状疱疹
第 15 回	まとめ、テスト

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	外科学概論 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	舘正之	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な外科学の知識を習得する。 実際に臨床現場での救急処置なども習得する。				
到達目標	応急処置治療および病院への搬送の必要性の判断が出来る。				
成績評価	定期試験および授業態度で評価。				
使用教材	外科学概論：公益社団法人全国柔道整復学校協会監修（南江堂） 標準外科学（医学書院）				
留意点					

回 数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス、年間予定発表 総論 損傷、創傷
第 2 回	総論 熱傷 小テスト
第 3 回	総論 炎症 外科感染症
第 4 回	総論 小テスト
第 5 回	総論 腫瘍（良性腫瘍）
第 6 回	総論 腫瘍（悪性腫瘍）
第 7 回	総論 腫瘍（悪性腫瘍・治療・疫学）
第 8 回	総論 小テスト
第 9 回	総論 ショック
第 10 回	総論 輸血、輸液
第 11 回	総論 小テスト
第 12 回	総論 消毒と滅菌
第 13 回	総論 手術 麻酔
第 14 回	総論 移植と免疫
第 15 回	総論 出血と止血 心肺蘇生法

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	外科学概論Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	舘正之	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な外科学の知識を習得する。 実際に臨床現場での救急処置なども習得する。				
到達目標	各疾患を理解し知識を深める。				
成績評価	定期試験および授業態度で評価。				
使用教材	外科学概論：公益社団法人全国柔道整復学校協会監修（南江堂） 標準外科学（医学書院）				
留意点					

回 数	授 業 計 画
第 1 回	脳神経外科 徴候
第 2 回	脳神経外科 頭部外傷（外科領域）
第 3 回	脳神経外科 脳血管障害・脳腫瘍（外科領域）
第 4 回	小テスト
第 5 回	甲状腺疾患・乳腺疾患
第 6 回	胸部外科 肺癌（外科領域）
第 7 回	胸部外科 肺癌（外科領域）
第 8 回	心臓外科 （外科領域）
第 9 回	心臓外科 脈管疾患（外科領域）
第 10 回	小テスト
第 11 回	消化器外科 食道。胃十二指腸・大腸疾患
第 12 回	消化器外科 肝胆膵（外科領域）
第 13 回	消化器外科 その他の腹部外科疾患
第 14 回	小テスト
第 15 回	まとめ

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	整形外科概論 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鈴木伸典	実務経験	有	時間数	30
学修内容	整形外科の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。				
成績評価	定期試験：4 択試験、80 点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高 20 点）を併せて 60 点以上の得点で単位認定				
使用教材	整形外科：南江堂 柔道整復学 理論編：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	骨の基礎知識
第 2 回	リモデリング ビタミン D 骨軟化
第 3 回	骨粗鬆症
第 4 回	骨折治癒過程・合併症
第 5 回	骨髄炎・骨腫瘍
第 6 回	系統的骨疾患
第 7 回	関節の基礎知識
第 8 回	関節の感染症 結核性関節炎
第 9 回	関節リウマチ： 病態・診断・治療法
第 10 回	変形性関節症 1
第 11 回	変形性関節症 2
第 12 回	骨端症・循環障害 非感染性関節疾患
第 13 回	発育性股関節形成不全・離断性骨軟骨炎
第 14 回	骨格異常足趾の変形
第 15 回	遺伝の話題

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	整形外科概論 II	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鈴木伸典	実務経験	有	時間数	30
学修内容	整形外科の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。				
成績評価	定期試験：4 択試験、80 点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高 20 点）を併せて 60 点以上の得点で単位認定				
使用教材	整形外科：南江堂 柔道整復学 理論編：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	骨格筋の基礎知識 筋膜
第 2 回	筋肉疾患 : 進行性筋ジストロフィー・筋断裂
第 3 回	靭帯・腱の基礎知識
第 4 回	腱鞘炎 ・ 腱断裂
第 5 回	神経の基礎知識 神経麻痺
第 6 回	絞扼性神経障害：橈骨神経麻痺
第 7 回	正中神経麻痺・尺骨神経麻痺
第 8 回	腕神経叢疾患 : 胸郭出口症候群 分娩麻痺 引き抜き損傷
第 9 回	絞扼性神経障害（下肢）
第 10 回	椎間板ヘルニア
第 11 回	脊柱管狭窄症
第 12 回	脊髄損傷： 概念・診断・リハビリテーション
第 13 回	脊髄疾患 脊髄腫瘍
第 14 回	脳性麻痺 歩行障害
第 15 回	湿布の薬理 : NSAIDs

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	リハビリテーション概論 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	鵜飼建志	実務経験	有	時間数	30
学修内容	リハビリテーションの一分野である「リハビリテーション医学」の概要を知る。主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について学ぶ。教科書を中心に講義を進めるが、より理解を深め、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	リハビリテーション医学の概要、治療対象を知る。 主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について説明できる。 講義を通し、柔道整復師にとって必要な医療人としての一般常識、専門知識の基礎、倫理観などを知る。				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	リハビリテーション医学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回 数	授業計画
第 1 回	講義概要、リハビリテーションの概念
第 2 回	リハビリテーション医学
第 3 回	リハビリテーション医学の基礎医学（運動学と機能解剖）
第 4 回	リハビリテーション医学の基礎医学（運動学と機能解剖）
第 5 回	リハビリテーション医学の基礎医学（障害学）
第 6 回	リハビリテーション医学の基礎医学（治療学）
第 7 回	リハ医学の評価と診断（A. 患者の捉え方、B. 身体計測）
第 8 回	リハ医学の評価と診断（C. 関節可動域測定法～）
第 9 回	リハ医学の評価と診断（D. E. F）
第 10 回	リハ医学の評価と診断（G. 小児の評価法、H. 協調性テスト）
第 11 回	リハ医学の評価と診断（H. 失認と失行の評価法、J. 心理評価）
第 12 回	リハ医学の評価と診断（K. L. M）
第 13 回	リハビリテーションの治療（A 理学療法-1 運動療法）
第 14 回	リハビリテーションの治療（A-2 物理療法）
第 15 回	リハビリテーションの治療（A-3 牽引、マッサージ他）

2023年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II部		
		対象学年	2年	学期	後期
科目名	リハビリテーション概論II	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	鵜飼建志	実務経験	有	時間数	30
学修内容	リハビリテーションの一分野である「リハビリテーション医学」の概要を知る。主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について学ぶ。教科書を中心に講義を進めるが、より理解を深め、臨床力をつけるための補足説明も加える。				
到達目標	リハビリテーション医学の概要、治療対象を知る。 主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について説明できる。 講義を通し柔道整復師にとって必要な医療人としての一般常識、専門知識の基礎、倫理観などを知る。				
成績評価	定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。				
使用教材	リハビリテーション医学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。				

回数	授業計画
第1回	リハビリテーションの治療 (B 作業療法)
第2回	リハビリテーションの治療 (C 補装具-1 装具)
第3回	リハビリテーションの治療 (C 補装具-2 義肢)
第4回	リハビリテーションの治療 (C 補装具-3 移動補助具 -4 自助具他)
第5回	リハビリテーションの治療 (D 言語治療)
第6回	リハ医学と関連職種、リハの実際 A 脳卒中-1 分類と特徴
第7回	リハの実際 A 脳卒中-2 障害-3 リハ
第8回	リハの実際 B 脊髄損傷
第9回	リハの実際 C 小児疾患 5-7, D 切断
第10回	リハの実際 D 切断 E 末梢神経損傷
第11回	リハの実際 F 関節リウマチ
第12回	リハの実際 G 整形外科疾患
第13回	リハの実際 H 心疾患 I 呼吸器疾患
第14回	リハの実際 J 老人のリハビリテーション
第15回	リハビリテーションと福祉

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	一般臨床医学Ⅳ	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	30
学修内容	柔道整復師として自分の力量と限界をわきまえながら、救急現場や他の場面で適切に病態把握をして対処する方法を確認する。損傷に類似した症状を示す疾患の病態把握と治療法・対処法などを学習する。				
到達目標	既に学んでいる知識を整理し定着させ応用できる能力を向上させることを目標にする。				
成績評価	小テストおよび授業態度などを総合して評価する。				
使用教材	関連する教科書および他の資料など。				
留意点	90分の授業で学生の集中力を維持するために、色々な内容を準備する。 また、国家試験が近づいているため内容によっては関連する過去問を取り上げながら可能な範囲で解説していく。				

回 数	授業計画
第 1 回	1 柔道整復術の適否を考える
第 2 回	2 損傷に類似した症状を示す疾患 (1)
第 3 回	3 損傷に類似した症状を示す疾患 (2)
第 4 回	4 損傷に類似した症状を示す疾患 (3)
第 5 回	5 血流障害を伴う損傷
第 6 回	6 末梢神経損傷を伴う損傷
第 7 回	7 脱臼骨折
第 8 回	8 外出血を伴う損傷
第 9 回	9 病的骨折および脱臼
第 10 回	10 意識障害を伴う損傷
第 11 回	11 脊髄症状のある損傷
第 12 回	12 呼吸運動障害を伴う損傷
第 13 回	13 内臓損傷の合併が疑われる損傷
第 14 回	14 高エネルギー外傷
第 15 回	15 まとめ

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	衛生学・公衆衛生学 I	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	30
学修内容	疾病の発症に関わる様々な社会・環境要因についての理解を深め、疾病の一次予防、二次予防、三次予防に必要な諸条件の整備について考察・実践するために必要な知識を習得することを目標にする。				
到達目標	社会・環境要因は人の一生を軸にした見方と、人の生活、労働などの活動の場を軸にした見方で整理し、人の健康と環境との関係性を評価するための科学的理論である疫学的方法論や様々な行政資料の意義とその利用法について学び、データから新たな知見を見いだすことができる独創力を養う。				
成績評価	定期試験 50% 小テスト 2回 50% 参加度 授業に取り組む学習態度として遅刻・欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	衛生学・公衆衛生学：公益法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 国家試験過去問題集				
留意点	衛生学・公衆衛生学は学際的な基礎科目であり、人の健康増進に寄与するすべての専門職（医療系、栄養系、環境系）は資格の種類にかかわらず学んでおくことが要求される共通分野である。				

回 数	授業計画
第 1 回	衛生学・公衆衛生学の歴史
第 2 回	健康の概念
第 3 回	健康指標
第 4 回	疾病予防・健康管理
第 5 回	感染症
第 6 回	感染症予防対策
第 7 回	消毒法の分類と実践
第 8 回	第 1 回～第 7 回まとめ（第一回小テストおよび解説）
第 9 回	環境保健 1
第 10 回	環境保健 2
第 11 回	生活環境
第 12 回	食品衛生 1
第 13 回	食品衛生 2・廃棄物
第 14 回	母子保健
第 15 回	第 9 回～第 14 回まとめ（第二回小テストおよび解説）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	30
学修内容	疾病の発症に関わる様々な社会・環境要因についての理解を深め、疾病の一次予防、二次予防、三次予防に必要な諸条件の整備について考察・実践するために必要な知識を習得することを目標にする。				
到達目標	社会・環境要因は人の一生を軸にした見方と、人の生活、労働などの活動の場を軸にした見方で整理し、人の健康と環境との関係性を評価するための科学的理論である疫学的方法論や様々な行政資料の意義とその利用法について学び、データから新たな知見を見いだすことができる独創力を養う。				
成績評価	定期試験 50% 小テスト 2回 50% 参加度 授業に取り組む学習態度として遅刻・欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	衛生学・公衆衛生学：公益法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 国家試験過去問題集				
留意点	衛生学・公衆衛生学は学際的な基礎科目であり、人の健康増進に寄与するすべての専門職（医療系、栄養系、環境系）は資格の種類にかかわらず学んでおくことが要求される共通分野である。				

回 数	授業計画
第 1 回	学校保健
第 2 回	産業保健 1
第 3 回	産業保健 2
第 4 回	成人保健 1
第 5 回	成人保健 2・高齢者保健
第 6 回	精神保健
第 7 回	第 1 回～第 6 回まとめ（第一回小テストおよび解説）
第 8 回	地域保健 1
第 9 回	地域保健 2・国際保健
第 10 回	衛生行政
第 11 回	保健医療制度
第 12 回	疫学 1
第 13 回	疫学 2
第 14 回	第 8 回～第 13 回まとめ（第二回小テストおよび解説）
第 15 回	医の倫理と安全確保、まとめ、練習問題

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	関係法規	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	遠山 治孝	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師として必要な保険医療制度と関係法規について学ぶ。				
到達目標	柔道整復師に関連する法律の知識の習得。				
成績評価	定期試験 100% 参加度 欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 再試験の評価については、その試験のみで評価する。				
使用教材	関係法規：社団法人全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社				
留意点	関係法規は柔道整復師の身分を定める法律を含め学ぶため皆勤が望ましい。				

回 数	授業計画
第 1 回	法の意義、体系
第 2 回	患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント
第 3 回	柔道整復師法：目的、定義
第 4 回	柔道整復師法：免許、国家試験
第 5 回	柔道整復師法：業務
第 6 回	柔道整復師法：施術所
第 7 回	柔道整復師法：雑則、罰則
第 8 回	医療関係法規
第 9 回	医療関係法規
第 10 回	医療法
第 11 回	医療法
第 12 回	社会福祉関係法規
第 13 回	社会保険関係法規
第 14 回	総復習 1
第 15 回	総復習 2

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	柔道 II A	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	今尾省司・丹羽十堂	実務経験		時間数	30
学修内容	柔道整復師として必要な柔道の素養を身につける。				
到達目標	認定実技採点基準に準じた礼法、受け身を行うことができる。 十分な速度、勢いのある約束乱取りを行うことができる。 基本的な柔道に関する歴史・ルールを説明することができる。				
成績評価	1. 定期試験 (80%) 2. 筆記試験 (10%) 3. 出席及び授業態度 (10%)				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂)				
留意点	ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	寝技 1 年次の復習
第 3 回	立技 1 年次の復習 ① (大腰)
第 4 回	立技 1 年次の復習 ② (体落)
第 5 回	立技 1 年次の復習①、②の復習
第 6 回	立技 大内刈
第 7 回	立技 送足払
第 8 回	立技 支釣込足
第 9 回	立技 背負投
第 10 回	立技 色々な打込・投げ込み方法
第 11 回	立技 約束乱取り・筆記試験説明①
第 12 回	立技 約束乱取り・筆記試験説明②
第 13 回	実技試験説明・練習
第 14 回	実技試験・筆記試験
第 15 回	実技・筆記試験解説

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	柔道 II B	科目の別	実技	単位数	1
担当教員	今尾省司・丹羽十堂	実務経験		時間数	30
学修内容	柔道整復師として必要な柔道の素養を身につける。				
到達目標	認定実技採点基準に準じた礼法、受け身を行うことができる。 十分な速度、勢いのある約束乱取りを行うことができる。 基本的な柔道に関する歴史・ルールを説明することができる。				
成績評価	1. 定期試験 (80%) 2. 筆記試験 (10%) 3. 出席及び授業態度 (10%)				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂)				
留意点	ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。				

回 数	授業計画
第 1 回	寝技 絞め技、関節技①
第 2 回	寝技 絞め技、関節技②
第 3 回	立技 新たな技 (大外刈) 約束乱取り 寝技 亀の返し方①
第 4 回	立技 新たな技 (払腰) 約束乱取り 寝技 亀の返し方②
第 5 回	立技 新たな技 (内股) 約束乱取り 寝技 亀の返し方③
第 6 回	立技 連絡技 約束乱取り 寝技 乱取り
第 7 回	立技 返し技 約束乱取り 寝技 乱取り
第 8 回	立技 立技から寝技への移行 約束乱取り 寝技 乱取り
第 9 回	立技 約束乱取り 寝技 乱取り 柔道のルール説明①
第 10 回	立技 約束乱取り 寝技 乱取り 柔道のルール説明②
第 11 回	立技 乱取り 寝技 乱取り 審判実践①
第 12 回	立技 乱取り 寝技 乱取り 審判実践②
第 13 回	定期試験の説明 (筆記・実技)
第 14 回	定期試験 (筆記・実技)
第 15 回	投の形の説明

2023年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II部		
		対象学年	3年生	学 期	通 年
科目名	柔道Ⅲ	科目の別	実 技	単位数	1
担当教員	今尾省司 丹羽十堂	実務経験	有	時間数	45
学修内容	礼法、受身、約束乱取の習得、投の形(手技、腰技、足技)の習得、試験形式				
到達目標	認定実技審査合格レベルに到達する				
成績評価	1. 認定実技模擬審査(50%) 2. 3回の小テスト(各10% 計30%) 3. 出席及び授業態度(20%) ※3年間で筆記のみ合格し、実技試験に合格していない者は単位取得を認めない。				
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂) 講道館柔道DVDシリーズ第3作「投の形」(財団法人講道館)				
留意点	見学者は授業中にレポートを書いて提出することにより出席とすることもある				

回 数	授業計画	回 数	授業計画
第1回	礼法の確認、受身、寝技、立技	第16回	受身、約束乱取、投の形(足技)
第2回	受身、寝技、立技、投の形(浮落)	第17回	受身、投の形(足技)、小テスト③
第3回	受身、寝技、立技、投の形(背負投)	第18回	認定実技の流れ、練習
第4回	受身、寝技、立技、投の形(肩車)	第19回	認定実技の練習
第5回	受身、寝技、立技、投の形(手技)	第20回	認定実技模擬試験の反省、練習
第6回	受身、投の形(手技)、小テスト①	第21回	認定実技の練習
第7回	受身、寝技、立技、投の形(浮腰)	第22回	認定実技の練習
第8回	受身、寝技、立技、投の形(払腰)	第23回	認定実技最終確認、練習
第9回	受身、寝技、立技、投の形(釣込腰)		
第10回	受身、寝技、立技、投の形(腰技)		
第11回	受身、投の形(腰技)、小テスト②		
第12回	受身、寝技、立技、投の形(送足払)		
第13回	受身、寝技、立技、投の形(支釣込足)		
第14回	受身、約束乱取、投の形(内股)		
第15回	受身、約束乱取、投の形(足技)		

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 演習 I	科目の別	演 習	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な人体の機能について修得する。				
到達目標	病理学・一般臨床医学を理解するために必要となる人体の正常な機能を理解する。				
成績評価	期末試験【100%】				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回 数	授 業 計 画
第 1 回	物質の移動（拡散、浸透、ろ過）、細胞内液と細胞外液の特徴
第 2 回	静止膜電位と活動電位
第 3 回	上行性伝導路と下行性伝導路
第 4 回	自律神経系
第 5 回	血液の役割、血液の組成
第 6 回	免疫機能（免疫系器官、免疫性細胞）
第 7 回	自然免疫と獲得免疫の特徴
第 8 回	心臓の構造
第 9 回	心電図
第 10 回	心周期
第 11 回	血圧調節
第 12 回	呼吸器の基本的構造
第 13 回	換気のしくみ
第 14 回	酸素運搬と二酸化炭素運搬
第 15 回	呼吸調節のしくみ

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 演習ⅡA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な解剖学的知識を修得する。				
到達目標	運動器系・神経系・循環器系について、臨床症状の検討ができること。 内臓系について、柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） 柔道整復師国家試験の過去問題				
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	解剖学概説
第 3 回	運動器系（骨格系）
第 4 回	運動器系（筋系）
第 5 回	末梢神経系（脊髄神経）
第 6 回	循環器系（心臓）
第 7 回	循環器系（動脈系・静脈系、リンパ系、胎児循環）
第 8 回	消化器系（消化管）
第 9 回	消化器系（肝臓・胆嚢・膵臓）
第 10 回	呼吸器系
第 11 回	泌尿器系
第 12 回	生殖器系
第 13 回	内分泌系
第 14 回	中枢神経系
第 15 回	末梢神経系（脳神経）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 演習 II B	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な解剖学的知識を修得する。				
到達目標	運動器系・神経系・循環器系について、臨床症状の検討ができること。 柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） 柔道整復師国家試験の過去問題				
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。				

回 数	授業計画
第 1 回	感覚器系
第 2 回	体表解剖
第 3 回	運動器系の問題演習
第 4 回	循環器系の問題演習
第 5 回	消化器系の問題演習
第 6 回	呼吸器系の問題演習
第 7 回	泌尿器系の問題演習
第 8 回	生殖器系の問題演習
第 9 回	内分泌系の問題演習
第 10 回	中枢神経系の問題演習
第 11 回	末梢神経系の問題演習
第 12 回	感覚器系の問題演習
第 13 回	解剖学全般の問題演習①
第 14 回	解剖学全般の問題演習②
第 15 回	解剖学全般の問題演習③

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	外傷保存療法	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	有・無	時間数	15
学修内容	柔道整復師の業務範囲を理解し外傷に対する施術の実施方法を修得する				
到達目標	柔道整復師の業務範囲が説明できる 問診・視診・触診を実施する際の注意事項が説明できる 整復・固定・後療法を実施する際の注意事項が説明できる				
成績評価	定期試験【100%】				
使用教材	柔道整復学・実技編 改訂第2版（南江堂）				
留意点	臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の留意点を常に意識させながら授業を進める。				

回 数	授 業 計 画
第 1 回	柔道整復業務
第 2 回	骨折の施術、脱臼の施術、軟部組織損傷の施術
第 3 回	損傷の診察
第 4 回	鑑別診断、合併症の有無の判定、治療法に関する情報の提示
第 5 回	説明と同意、徒手整復、固定法、整復・固定後の確認
第 6 回	医科との連携、固定期間の検討
第 7 回	後療法、治癒の判定
第 8 回	指導管理、予後
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	
第 13 回	
第 14 回	
第 15 回	

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学各論 I A	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論、頭部・顔面部損傷および鎖骨部損傷の知識を修得する。 臨床現場で施術にあたるための基礎知識を得る。				
到達目標	頭部、顔面部、鎖骨部の損傷の定義・分類・評価方法等について説明することができる。 頭部、顔面部、鎖骨部の治療法および指導管理について説明することができる。				
成績評価	定期試験 80% 小テスト 20% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 必要に応じて映像、スライド、レントゲン写真を用いる。				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション（学習方法、評価方法等）
第 2 回	頭部・顔面部の解剖と機能
第 3 回	頭部・顔面部の骨折①（頭蓋冠骨折の概説および合併症）
第 4 回	頭部・顔面部の骨折②（頭蓋底骨折の概説および合併症）
第 5 回	頭部・顔面部の骨折③（鼻骨・鼻軟骨骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折）
第 6 回	頭部・顔面部の骨折④（下顎骨骨折）、顎関節前方脱臼（両側脱臼、片側脱臼）
第 7 回	顎関節脱臼（後方脱臼、側方脱臼）、頭部・顔面部の打撲
第 8 回	顎関節症と外傷性顎関節損傷（顎関節捻挫）
第 9 回	鎖骨部の解剖と機能
第 10 回	鎖骨骨折の概説（定型的転位、症状、合併症）
第 11 回	鎖骨骨折の固定法（セイヤー絆創膏固定、8 字帯固定法）
第 12 回	鎖骨脱臼①（胸鎖関節脱臼の概説および合併症）
第 13 回	鎖骨脱臼②（肩鎖関節脱臼の概説および合併症）
第 14 回	鎖骨脱臼③（肩鎖関節上方脱臼のテープ固定法）
第 15 回	総復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学各論 I B	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	上肢帯から続く上腕近位部～骨幹部の外傷の鑑別ができるだけの知識を身につける。 臨床現場で施術にあたるための基礎知識を得る。				
到達目標	柔道整復師に必要な柔道整復理論、上腕骨近位部、肩部損傷の知識を修得する。 臨床現場で施術にあたるための基礎知識を得る。				
成績評価	定期試験 80% 小テスト 20% 無断欠席および授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 必要に応じて映像、スライド、レントゲン写真を用いる。				
留意点					

回 数	授 業 計 画
第 1 回	肩関節部の損傷① 解剖および機能
第 2 回	肩関節部の損傷② 肩甲骨骨折の概説および合併症
第 3 回	肩関節部の損傷③ 上腕骨近位部骨折(解剖頸骨折、外科頸骨折)の概説および合併症
第 4 回	肩関節部の損傷④ 肩関節前方脱臼の概説と整復法・固定法
第 5 回	肩関節部の損傷⑤ 肩関節前方脱臼の固定法（局所副子固定）
第 6 回	肩関節部の損傷⑥ 肩関節後方脱臼・下方脱臼の概説および合併症
第 7 回	肩関節部の軟部組織損傷① 腱板断裂、上腕二頭筋長頭腱損傷
第 8 回	肩関節部の軟部組織損傷② スポーツに伴う損傷
第 9 回	肩関節部の軟部組織損傷③ スポーツに伴う損傷
第 10 回	肩関節部の軟部組織損傷④ 動揺性肩関節、末梢神経障害、その他の疾患
第 11 回	上腕部の損傷① 解剖および機能、上腕骨外科頸骨折の概説および合併症
第 12 回	上腕部の損傷② 上腕骨外科頸骨折の概説および合併症
第 13 回	上腕部の損傷③ 上腕骨外科頸骨折の整復法・固定法、上腕骨骨幹部骨折の概説
第 14 回	上腕部の損傷④ 上腕骨骨幹部骨折の概説、整復法・固定法（ミッドドルフ三角副子）
第 15 回	上腕部の損傷⑤ 上腕骨骨幹部骨折の整復法・固定法（ミッドドルフ三角副子）

2023年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2年	学 期	前期
科目名	柔道整復学 各論ⅡA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	高橋 亮	実務経験	有	時間数	30
学修内容	肘関節部から指先までの骨折・脱臼・軟部組織損傷に対して、発生機序・整復法・固定法を理解し修得する				
到達目標	各損傷を理解し説明できる 各部位における鑑別診断とその指導管理について説明できる				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	柔道整復学【理論編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 柔道整復学【実技編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 標準整形外科学（南江堂）				
留意点	肘関節部から指先までの損傷は臨床でも遭遇する機会が多いので、症状の理解から 施術がイメージできることが望まれる *神経損傷については各論ⅠA・ⅠBで行う				

回 数	授業計画
第1回	肘関節部の機能解剖
第2回	上腕骨遠位部の骨折（顆上骨折）
第3回	上腕骨遠位部の骨折（外顆骨折、内側上顆骨折）
第4回	前腕骨近位部の骨折（橈骨近位端骨折、肘頭骨折）
第5回	肘関節脱臼（前腕両骨脱臼）
第6回	肘関節脱臼（前腕両骨後方脱臼、整復法、固定法）実技含む
第7回	肘関節脱臼（橈骨頭単独脱臼、肘内障）実技含む
第8回	肘関節部の軟部組織損傷（靭帯損傷、野球肘、テニス肘など）
第9回	前腕部の機能解剖
第10回	前腕骨骨幹部骨折（橈骨骨幹部骨折、ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折）
第11回	前腕骨骨幹部骨折（モンテギア骨折、前腕両骨骨幹部骨折）
第12回	前腕部の軟部組織損傷（コンパートメント症候群、腱交叉症候群）
第13回	手関節部の機能解剖
第14回	前腕遠位部の骨折（コーレス骨折、スミス骨折）
第15回	前腕遠位部の骨折（バートン骨折、ショーファー骨折、骨端線離開）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2年	学 期	後期
科目名	柔道整復学 各論ⅡB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	高橋 亮	実務経験	有	時間数	30
学修内容	肘関節部から指先までの骨折・脱臼・軟部組織損傷に対して、発生機序・整復法・固定法を理解し修得する				
到達目標	各損傷を理解し説明できる 各部位における鑑別診断とその指導管理について説明できる				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	柔道整復学【理論編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 柔道整復学【実技編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 標準整形外科学（南江堂）				
留意点	肘関節部から指先までの損傷は臨床でも遭遇する機会が多いので、症状の理解から 施術がイメージできることが望まれる *神経損傷については各論ⅠA・ⅠBで行う				

回 数	授業計画
第 1 回	前腕遠位部の骨折（コーレス骨折の整復法、固定法）実技含む
第 2 回	手根骨骨折（舟状骨骨折）
第 3 回	手根骨骨折（三角骨、有鈎骨、豆状骨、その他の骨折）
第 4 回	手関節脱臼（遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼）
第 5 回	手関節脱臼（月状骨および月状骨周囲脱臼）
第 6 回	手関節部の軟部組織損傷（TFCC、ド・ケルバン病、その他）
第 7 回	手指部の機能解剖
第 8 回	中手骨骨折（骨頭骨折、頸部骨折、骨幹部骨折、基部骨折）
第 9 回	手根中手関節脱臼（第 1 CM、第 2～5 CM 関節）
第 10 回	指骨骨折（基節骨骨折）
第 11 回	指骨骨折（中節骨骨折）
第 12 回	指骨骨折（末節骨骨折）
第 13 回	中手指節間脱臼（第 1 MP、第 2～5 MP 関節）
第 14 回	指節間関節脱臼（PIP, DIP 関節）
第 15 回	腱・靭帯の損傷、手指部の変形疾患

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 演習ⅢA	科目の別	演 習	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	○有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な生理学的知識を修得する。				
到達目標	循環器系・呼吸器系・体温調節について臨床症状の検討ができること。 血液・消化・代謝について柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。				
成績評価	小テスト【50%】 期末試験【50%】				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回 数	授 業 計 画
第 1 回	柔道整復師に必要な生理学基礎
第 2 回	柔道整復師に必要な生理学基礎
第 3 回	柔道整復師に必要な血液の機能
第 4 回	柔道整復師に必要な血液の機能
第 5 回	柔道整復師に必要な循環器の機能
第 6 回	柔道整復師に必要な循環器の機能
第 7 回	柔道整復師に必要な呼吸器の機能
第 8 回	柔道整復師に必要な呼吸器の機能
第 9 回	柔道整復師に必要な消化器の機能
第 10 回	柔道整復師に必要な消化器の機能
第 11 回	柔道整復師に必要な代謝の機能
第 12 回	柔道整復師に必要な代謝の機能
第 13 回	柔道整復師に必要な体温とその調節
第 14 回	柔道整復師に必要な体温とその調節
第 15 回	柔道整復師に必要な泌尿器の機能

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 演習ⅢB	科目の別	演 習	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な生理学的知識を修得する。				
到達目標	筋骨格系・神経系・感覚系について臨床症状の検討ができること。 泌尿器系・内分泌系・生殖系について柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。				
成績評価	小テスト【50%】 期末試験【50%】				
使用教材	柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社）				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回 数	授業計画
第 1 回	柔道整復師に必要な泌尿器の機能
第 2 回	柔道整復師に必要な内分泌の機能
第 3 回	柔道整復師に必要な内分泌の機能
第 4 回	柔道整復師に必要な生殖器の機能
第 5 回	柔道整復師に必要な生殖器の機能
第 6 回	柔道整復師に必要な骨の機能
第 7 回	柔道整復師に必要な骨の機能
第 8 回	柔道整復師に必要な体液の機能
第 9 回	柔道整復師に必要な体液の機能
第 10 回	柔道整復師に必要な神経の機能
第 11 回	柔道整復師に必要な神経の機能
第 12 回	柔道整復師に必要な筋肉の機能
第 13 回	柔道整復師に必要な筋肉の機能
第 14 回	柔道整復師に必要な感覚器の機能
第 15 回	柔道整復師に必要な感覚器の機能

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 各論IVA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復学における膝関節周囲の疾患について、疫学・発生機序・症状・治療法の理論を修得する。				
到達目標	柔道整復学における膝関節周囲の疾患について正しく理解し、説明できること。				
成績評価	中間試験 30% 期末試験 70%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 標準整形外科学（南江堂）				
留意点	出席を常とし、こまめな復習を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション・膝関節の解剖と機能
第 2 回	膝関節部の軟部組織損傷（半月板損傷）
第 3 回	膝関節部の軟部組織損傷（側副靭帯損傷）
第 4 回	膝関節部の軟部組織損傷（十字靭帯損傷）
第 5 回	膝関節部の軟部組織損傷の検査法実技
第 6 回	膝関節側副靭帯損傷の X サポートテープ実技とエコー観察
第 7 回	中間試験（膝関節部の軟部組織損傷・検査法および固定法実技を含む）
第 8 回	大腿骨遠位端部骨折
第 9 回	膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼・膝関節脱臼
第 10 回	下腿骨近位端部骨折
第 11 回	発育期の膝関節障害
第 12 回	膝関節のスポーツ障害
第 13 回	膝蓋大腿関節障害
第 14 回	膝周囲の関節包、滑液包の異常・神経の障害
第 15 回	注意すべき疾患（骨肉腫・関節リウマチなど）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 各論IVB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復学における下腿から足部の疾患について、疫学・発生機序・症状・治療法の理論を修得する。				
到達目標	柔道整復学における下腿から足部の疾患について正しく理解し、説明できること。				
成績評価	中間試験 30% 期末試験 70%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 標準整形外科学（南江堂）				
留意点	出席を常とし、こまめな復習を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	下腿部の解剖と機能
第 2 回	下腿骨骨幹部骨折（クラメル副子固定）
第 3 回	下腿骨果上骨折・下腿骨疲労骨折
第 4 回	アキレス腱（周囲）炎・アキレス腱断裂（クラメル副子固定）
第 5 回	下腿部のスポーツ障害
第 6 回	コンパートメント症候群
第 7 回	足関節の解剖と機能
第 8 回	果部骨折・足関節部の脱臼
第 9 回	足根骨骨折（距骨・踵骨）
第 10 回	足関節捻挫（局所副子固定）
第 11 回	足関節捻挫の類症鑑別
第 12 回	足関節のテーピング（バスケットウィーブ・フィギュアエイト・ヒールロック）
第 13 回	足・足趾部の解剖と機能
第 14 回	足根骨骨折（舟状骨・立方骨・楔状骨）・中足骨骨折
第 15 回	趾骨の骨折・足根部の脱臼と軟部組織損傷

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 各論VA	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	各分野の損傷の特徴を捉え、説明することができる。 総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部損傷部の内容を説明することができる。				
成績評価	中間試験【50%】 定期試験【50%】				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	1. 2年次で学修した内容の復習を行い、国家試験での得点力を獲得するための授業であるため、積極的に質問・発言をすることが望ましい。				

回 数	授業計画
第1回	鎖骨骨折
第2回	肩鎖関節脱臼・肩甲骨骨折
第3回	上腕骨外科頸骨折
第4回	肩関節脱臼
第5回	肩部軟部組織損傷
第6回	第1回中間テスト
第7回	上腕骨骨幹部骨折・上腕骨顆上骨折
第8回	上腕骨外顆骨折・上腕骨内側上顆骨折
第9回	肘関節脱臼・肘内障
第10回	肘部軟部組織損傷
第11回	第2回中間テスト
第12回	前腕骨骨幹部骨折
第13回	前腕軟部組織損傷
第14回	橈骨遠位端部骨折
第15回	手根骨骨折、総復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復学 各論VB	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	各分野の損傷の特徴を捉え、説明することができる。 総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部損傷部の内容を説明することができる。				
成績評価	中間試験【50%】 定期試験【50%】				
使用教材	柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	1. 2年次で学修した内容の復習を行い、国家試験での得点力を獲得するための授業であるため、積極的に質問・発言をすることが望ましい。				

回 数	授業計画
第 1 回	骨盤部骨折
第 2 回	股関節脱臼
第 3 回	大腿骨頸部骨折
第 4 回	大腿骨骨幹部骨折
第 5 回	股関節軟部組織損傷
第 6 回	大腿部軟部組織損傷
第 7 回	第 1 回中間テスト
第 8 回	膝部骨折
第 9 回	膝関節軟部組織損傷
第 10 回	膝関節軟部組織損傷
第 11 回	下腿骨骨幹部骨折
第 12 回	下腿軟部組織損傷
第 13 回	第 2 回中間テスト
第 14 回	足部骨折
第 15 回	足部脱臼、総復習

2023年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II部		
		対象学年	3年生	学 期	後期
科目名	各論VI	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	高橋 亮	実務経験	有	時間数	60
学修内容	柔道整復師に必要な「法規」「社会保障制度」「職業倫理」「柔道の理念」「解剖学」「生理学」「病理学」「一般臨床医学」「柔道整復学」の知識を修得する				
到達目標	「法規」「社会保障制度」「職業倫理」「柔道の理念」「解剖学」「生理学」「病理学」「一般臨床医学」「柔道整復学」の国家試験問題で80%以上正解できる				
成績評価	<p>第2回模擬試験または授業内で実施する試験で評価する。(定期試験・再試験は行わない)</p> <p>合格基準：次のいずれかを満たすもの</p> <p>①第2回模擬試験で必修問題8割以上かつ一般問題6割以上の得点</p> <p>②授業内で100点満点の試験を2度実施し得点合計が140点以上の得点</p> <p>※授業内で行う試験の出題割合は「必修科目×25」「解剖学×15」「生理学×15」「病理学×10」「一般臨床×15」「柔整理論×20」とする(例：校内模試の過去問から抜粋)</p> <p>評価：上記①または②の点数を100点換算し、いずれか良い点数とする。合格基準を満たさず、換算点が60点以上となるものはすべて「59点」とする。</p>				
使用教材	教科書：柔道整復学理論編・実技編 関係法規 社会保障制度 解剖学 生理学 病理学 一般臨床医学				
留意点	学習の優先順位を意識し知識を一つ一つ積み上げて下さい。				

回 数	授業計画	回 数	授業計画
第1回	教科書、配布資料を基に学習する	第16回	教科書、配布資料を基に学習する
第2回	教科書、配布資料を基に学習する	第17回	教科書、配布資料を基に学習する
第3回	教科書、配布資料を基に学習する	第18回	教科書、配布資料を基に学習する
第4回	教科書、配布資料を基に学習する	第19回	教科書、配布資料を基に学習する
第5回	教科書、配布資料を基に学習する	第20回	教科書、配布資料を基に学習する
第6回	教科書、配布資料を基に学習する	第21回	教科書、配布資料を基に学習する
第7回	教科書、配布資料を基に学習する	第22回	教科書、配布資料を基に学習する
第8回	教科書、配布資料を基に学習する	第23回	教科書、配布資料を基に学習する
第9回	教科書、配布資料を基に学習する	第24回	教科書、配布資料を基に学習する
第10回	第1回 授業内テスト	第25回	第2回 授業内テスト
第11回	教科書、配布資料を基に学習する	第26回	教科書、配布資料を基に学習する
第12回	教科書、配布資料を基に学習する	第27回	教科書、配布資料を基に学習する
第13回	教科書、配布資料を基に学習する	第28回	教科書、配布資料を基に学習する
第14回	教科書、配布資料を基に学習する	第29回	教科書、配布資料を基に学習する
第15回	教科書、配布資料を基に学習する	第30回	教科書、配布資料を基に学習する

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復学 各論ⅢA	科目の別	講 義	単位数	1
担当教員	太田康晴	実務経験	①・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論と実技の知識や技術を修得する。 骨折・脱臼・軟部組織損傷に関して系統的に学習する。				
到達目標	体幹部の骨折・脱臼の定義、分類について説明することができる。 骨折・脱臼の鑑別、合併症、軟部組織損傷など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折・脱臼・軟部組織損傷の症状、治療法、指導管理について説明することができる。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：南江堂				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回 数	授業計画
第 1 回	肋骨骨折、肋軟骨骨折
第 2 回	肋骨骨折の整復法・固定法
第 3 回	大腿部の軟部組織損傷
第 4 回	大腿部の軟部組織損傷の検査法
第 5 回	頸部の構造
第 6 回	外傷性頸部症候群（むち打ち損傷）
第 7 回	胸郭出口症候群、寝違え
第 8 回	頸部の検査法（ジャクソンテスト、スパーリングテスト、肩引き下げテスト）
第 9 回	頸部の検査法（イートンテスト、アドソンテスト、モーレイテスト、エデンテスト、ライトテスト、ルーステスト）
第 10 回	股関節の構造
第 11 回	鼠径部痛症候群、股関節唇損傷
第 12 回	弾発股（ばね股）
第 13 回	梨状筋症候群
第 14 回	股関節外転位拘縮・内転位拘縮・屈曲位拘縮
第 15 回	大腿骨頭すべり症、ペルテス病

2023年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II部		
		対象学年	2年	学期	後期
科目名	柔道整復学 各論ⅢB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	○・無	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な柔道整復理論と実技の知識や技術を修得する。 骨折・脱臼・軟部組織損傷に関して系統的に学習する。				
到達目標	体幹部の骨折・脱臼の定義、分類について説明することができる。 骨折・脱臼の鑑別、合併症、軟部組織損傷など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折・脱臼・軟部組織損傷の症状、治療法、指導管理について説明することができる。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	柔道整復学（理論編）（実技編）：南江堂				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。				

回数	授業計画
第1回	仙腸関節の検査法（ゲンスレンテスト、ニュートンテスト、）
第2回	股関節の検査法（アリステスト、ドレーマン徴候、パトリックテスト）
第3回	胸骨骨折、骨盤部の構造
第4回	骨盤骨折（骨盤骨単独骨折、骨盤輪骨折）
第5回	股関節脱臼
第6回	大腿骨骨頭部骨折、大腿骨頸部骨折
第7回	大腿骨転子部骨折、大腿骨転子下骨折
第8回	大腿骨骨幹部骨折
第9回	頸椎の骨折（上位頸椎骨折、中・下頸椎骨折）
第10回	胸椎の骨折（上部胸椎棘突起骨折、胸椎の椎体骨折）
第11回	腰椎の骨折（下位腰椎圧迫骨折、チャンス骨折、椎体破裂骨折、肋骨突起骨折）
第12回	頸椎・胸椎・腰椎脱臼
第13回	胸背部の軟部組織損傷
第14回	腰部の軟部組織損傷
第15回	頸部・仙腸関節・股関節の検査法

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	演習Ⅳ	科目の別	演 習	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	30
学修内容	整形外科学、運動学、リハビリテーション医学の各教科を復習し、国家試験合格の一助とする。				
到達目標	一般問題 60%以上の得点力を身につけさせる。また、解剖学、生理学、柔道整復学などの他教科とリンクした勉強方法を習得させる。				
成績評価	定期試験 100% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。				
使用教材	「運動学」医歯薬出版株式会社 「整形外科学」監修：南江堂 「リハビリテーション医学」監修：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	整形外科学①
第 2 回	整形外科学②
第 3 回	整形外科学③
第 4 回	整形外科学④
第 5 回	整形外科学⑤
第 6 回	整形外科学⑥
第 7 回	整形外科学⑦
第 8 回	整形外科学⑧
第 9 回	リハビリテーション医学①
第 10 回	リハビリテーション医学②
第 11 回	リハビリテーション医学③
第 12 回	運動学①
第 13 回	運動学②
第 14 回	運動学③
第 15 回	運動学④

2023年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II部		
		対象学年	2年	学期	前期
科目名	物理療法	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	有・無	時間数	15
学修内容	実際の現場で行われる物理療法の知識を習得し、疾病に合わせた物理療法の選択や、アプローチ方法を習得する。				
到達目標	物理療法の効果を患者に説明できるようにする。 目的を持った適切なアプローチができるようにする。				
成績評価	定期試験【100%】				
使用教材	柔道整復学・理論編 改訂6版（南江堂） 最新物理療法の臨床適応（文光堂） 自校にある物理療法機器				
留意点	臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の注意点を常に意識させながら授業を進める。				

回数	授業計画
第1回	物理療法の分類・安全対策
第2回	痛みの発生メカニズム
第3回	低周波電気刺激療法（効果・使用上の注意）
第4回	中周波電流療法（効果・使用上の注意）
第5回	温熱療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌）
第6回	変換熱療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌）
第7回	寒冷療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌）
第8回	牽引療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌）
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	臨床的判定	科目の別	講 義	単位数	2
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	柔道整復術の適応の判断に必要な外傷に類似する疾患と、外傷の危険な兆候の基礎知識を習得する。 様々な医用画像機器の基本的な原理と、画像の特性や判断における要点を習得する。				
到達目標	臨床所見から施術の適否を的確に判断することができる。 各画像の特徴を理解し説明することができる。 超音波画像装置の基本的な操作ができる。				
成績評価	定期試験 80% 小テスト 20%				
使用教材	施術の適応と医用画像の理解（：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂）				
留意点	講義内容が正しく理解されているか確認するため、講義内で小テストを実施する。 小テストは評価に含まれるため、出席を常とするよう注意する。				

回 数	授業計画
第 1 回	授業内容、評価方法説明、柔道整復術の適否
第 2 回	損傷に類似した症状を示す疾患
第 3 回	血流障害を伴う損傷
第 4 回	末梢神経損傷を伴う損傷
第 5 回	脱臼骨折・病的骨折および脱臼
第 6 回	外出血を伴う損傷
第 7 回	意識障害を伴う損傷
第 8 回	脊髄損傷のある損傷
第 9 回	呼吸運動障害を伴う損傷
第 10 回	内臓損傷の合併が疑われる損傷・高エネルギー外傷
第 11 回	医用画像の理解 放射線
第 12 回	X 線 CT・磁気共鳴検査
第 13 回	超音波画像装置
第 14 回	超音波画像装置 実技
第 15 回	超音波画像装置 実技

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	実技ⅢA	科目の別	実 習	単位数	1 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30 時間
学修内容	職業としての柔道整復師の理解する 柔道整復師の業務内容を理解する 業を行うのに必要な知識を確認し修得する				
到達目標	柔道整復師の業務内容を説明できる 柔道整復師の業を行うのに必要な知識と技術を修得できる				
成績評価	授業内容に即した課題提出 授業内に行う実技を評価				
使用教材	柔道整復学・理論編、実技編（南江堂） 病気がみえる 11「運動器。整形外科」（メディックメディア）				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	職業としての柔道整復術を考える
第 2 回	専門職としての柔道整復術を考える
第 3 回	健康保険、労災保険、自賠責保険、自由診療について
第 4 回	接骨院の業務内容概説
第 5 回	予診表について（中和式、英語版を参考に）
第 6 回	診察の流れと施術録の記入について
第 7 回	紹介状、依頼状、情報提供について
第 8 回	問診（医療面接）について
第 9 回	主訴、現病歴、既往歴について
第 10 回	服薬、アレルギー歴、家族歴、生活歴について
第 11 回	疼痛の問診について①
第 12 回	疼痛の問診について②
第 13 回	痺れの問題について①
第 14 回	痺れの問題について②
第 15 回	総合復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	実技ⅢB	科目の別	実 習	単位数	1 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30 時間
学修内容	職業としての柔道整復師の理解する 柔道整復師の業務内容を理解する 業を行うのに必要な知識を確認し修得する				
到達目標	柔道整復師の業務内容を説明できる 柔道整復師の業を行うのに必要な知識と技術を修得できる				
成績評価	授業内容に即した課題提出 授業内に行う実技を評価				
使用教材	柔道整復学・理論編、実技編（南江堂） 病気がみえる 11「運動器。整形外科」（メディックメディア）				
留意点					

回 数	授 業 計 画
第 1 回	徒手検査法について
第 2 回	症状の評価について
第 3 回	骨、骨格筋、神経症状の差異について
第 4 回	ニュートラルポジションの理解
第 5 回	下半身の評価①
第 6 回	下半身の評価②
第 7 回	上半身の評価①
第 8 回	上半身の評価②
第 9 回	指導管理について（姿勢・セルフストレッチ）
第 10 回	テーピング実技①
第 11 回	テーピング実技②
第 12 回	パートナーストレッチ①
第 13 回	パートナーストレッチ②
第 14 回	総合復習
第 15 回	総合復習

2023年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II部		
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	実技IVA	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	臨床現場で使用する施術方法を習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の病態に合わせた施術を選択できるようにする。 ・主に上肢に対する施術をできるようにする。 				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	上肢急性外傷のリハビリテーションとリコンディショニング (文光堂) 改訂第2版整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹 (MEDICAL VIEW) 結果の出せる整形外科理学療法 (MEDICAL VIEW) オステオパシーアトラス (医道の日本)				
留意点	常に感覚を集中させ、治療家としての感性を感じてもらえるように意識する。 身体に触れる機会が多くなるため、事故防止に留意する。				

回数	授業計画
第1回	ガイダンス
第2回	触診 (トリガーポイント①)
第3回	触診 (トリガーポイント②)
第4回	触診 (ジョイントモビライゼーション①)
第5回	触診 (ジョイントモビライゼーション②)
第6回	胸鎖関節・肩鎖関節に対する運動療法
第7回	胸鎖関節・肩鎖関節に対する手技療法
第8回	胸鎖関節・肩鎖関節に対するテーピング療法
第9回	肩甲胸郭関節に対する運動療法
第10回	肩甲胸郭関節に対する手技療法
第11回	肩甲胸郭関節に対するテーピング療法
第12回	肩甲上腕関節に対する運動療法
第13回	肩甲上腕関節に対する手技療法
第14回	肩甲上腕関節に対するテーピング療法
第15回	定期テスト

2023年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II部		
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	実技IVB	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有・無	時間数	30
学修内容	臨床現場で使用する施術方法を習得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の病態に合わせた施術を選択できるようにする。 ・主に上肢に対する施術をできるようにする。 				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	上肢急性外傷のリハビリテーションとリコンディショニング (文光堂) 改訂第2版整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹 (MEDICAL VIEW) 結果の出せる整形外科理学療法 (MEDICAL VIEW) オステオパシーアトラス (医道の日本)				
留意点	常に感覚を集中させ、治療家としての感性を感じてもらえるように意識する。 身体に触れる機会が多くなるため、事故防止に留意する。				

回数	授業計画
第1回	肩甲上腕関節に対するアプローチ (野球肩を中心に)
第2回	肘関節に対する運動療法
第3回	肘関節に対する手技療法
第4回	肘関節に対するテーピング療法
第5回	前腕部に対するテーピング療法
第6回	近位・遠位橈尺関節に対する運動療法
第7回	橈骨手根関節に対する運動療法
第8回	橈骨手根関節に対する手技療法
第9回	橈骨手根関節に対するテーピング療法
第10回	ロールプレイング①
第11回	ロールプレイング②
第12回	ロールプレイング③
第13回	ロールプレイング④
第14回	総復習
第15回	定期テスト

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	柔道整復実技VA	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	下肢の症例に対し臨床所見のとり方、施術方針や具体的な施術方法の考え方について修得する。施術方針に基づき各疾患の施術実技を行う。				
到達目標	臨床上よく遭遇する下肢の疾患を評価し施術の効果判定ができること。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂）				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	足部の機能解剖
第 2 回	足関節部の徒手検査法
第 3 回	足関節部のエコー観察（前距腓靭帯、前脛腓靭帯、二分靭帯など）
第 4 回	足関節捻挫の固定法（麦穂帯）
第 5 回	足関節捻挫の固定法（テーピング・ホワイトテープ）
第 6 回	足関節の機能的固定（テーピング・伸縮性テープ）
第 7 回	足関節のキャスト固定（シュガートング型）
第 8 回	外反母趾・扁平足の徒手療法と機能的テーピング
第 9 回	膝部の機能解剖
第 10 回	膝関節部の徒手検査法
第 11 回	膝関節部のエコー観察（骨・軟骨）
第 12 回	膝関節部のエコー観察（前方アプローチ：膝伸展機構、膝蓋下脂肪体）
第 13 回	膝関節部のエコー観察（内側・外側アプローチ：側副靭帯・半月板、腸脛靭帯）
第 14 回	膝関節の可動域訓練と大腿四頭筋訓練
第 15 回	期末試験

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	柔道整復実技 VB	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	体幹部の症例に対し臨床所見のとり方、施術方針や具体的な施術方法の考え方について修得する。施術方針に基づき各疾患の施術実技を行う。				
到達目標	臨床上よく遭遇する体幹部の疾患を評価し施術の効果判定ができること。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂）				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	頸部の機能解剖
第 2 回	頸部の徒手検査法（頸椎椎間板ヘルニア、胸郭出口症候群など）
第 3 回	頸部のエコー観察（斜角筋隙・僧帽筋、胸鎖乳突筋など）
第 4 回	頸部のテーピング固定
第 5 回	胸椎の機能解剖
第 6 回	胸椎の徒手療法
第 7 回	背部の筋力強化
第 8 回	腰椎・骨盤帯の機能解剖
第 9 回	腰部の徒手検査法（腰椎椎間板ヘルニア、椎間板・椎間関節症など）
第 10 回	腰部のエコー観察（棘突起列、多裂筋、脊柱起立筋、腰方形筋など）
第 11 回	骨盤帯の機能解剖
第 12 回	骨盤帯の徒手検査法（仙腸関節）
第 13 回	柔道整復師の手技療法（軽擦・強擦・揉捏・叩打・振戦・圧迫・伸張）
第 14 回	神経筋促通（PNF）
第 15 回	期末試験

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	前 期
科目名	臨床入門 I	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	上肢（肩関節、肘関節、手関節）の体表触察、関節可動域測定、徒手筋力検査、各種理学所見のとり方（腱反射など）、エコー画像の描出法を修得する。 医療面接の基本を修得する。				
到達目標	臨床上よく遭遇する上肢の疾患について、見て（診て）、触って、動かして評価できること。 臨床実習を行う前段階として、患者に接する基本的姿勢を身に付けること。				
成績評価	中間試験 30% 期末試験 70%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂）				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。 医療従事者としての姿勢を身に付けること。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	評価総論、ROM と MMT について
第 3 回	身体計測（肢長および周径）
第 4 回	肩甲帯の ROM
第 5 回	肩甲帯の MMT
第 6 回	肩関節の ROM
第 7 回	肩関節の MMT・徒手検査法・エコー観察
第 8 回	中間試験（身体計測～肩関節の評価）
第 9 回	肘関節の ROM
第 10 回	肘関節の MMT
第 11 回	肘関節の徒手検査法・エコー観察
第 12 回	手関節の ROM
第 13 回	手関節の MMT
第 14 回	手関節の徒手検査法・エコー観察
第 15 回	期末試験

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2 年	学 期	後 期
科目名	臨床入門Ⅱ	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	脊柱から下肢（股関節、膝関節、足関節）の体表触察、関節可動域測定、徒手筋力検査、各種理学所見のとり方（腱反射など）、エコー画像の描出法を修得する。 医療面接の基本を修得する。				
到達目標	臨床上よく遭遇する脊柱から下肢の疾患について、見て（診て）、触って、動かして評価できること。臨床実習を行う前段階として、患者に接する基本的姿勢を身に付けること。				
成績評価	中間試験 30% 期末試験 70%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂）				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。 医療従事者としての姿勢を身に付けること。				

回 数	授業計画
第 1 回	医療面接
第 2 回	股関節の ROM
第 3 回	股関節の MMT
第 4 回	股関節の徒手検査法
第 5 回	股関節の徒手療法（筋力強化訓練とストレッチ）
第 6 回	膝関節の ROM
第 7 回	膝関節の MMT
第 8 回	膝関節の徒手検査法・エコー観察
第 9 回	中間試験（股関節～膝関節の評価）
第 10 回	足関節の ROM
第 11 回	足関節の MMT
第 12 回	足関節の徒手検査法・エコー観察
第 13 回	頸椎椎間板ヘルニアの検査法
第 14 回	腰椎椎間板ヘルニアの検査法
第 15 回	期末試験

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	総合実技 I A	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技審査の出題項目に対応した施術実技を行う。 国家試験（特に必修問題）の対策を行う。				
到達目標	認定実技審査および国家試験における合格基準を達成する。				
成績評価	中間試験 60% (30%×2 回) 期末試験 40%				
使用教材	柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 認定実技審査要領および中和式マニュアル				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	オリエンテーション（認定実技審査および国家試験の概要）
第 2 回	鎖骨定型的骨折
第 3 回	上腕骨外科頸骨折
第 4 回	コーレス骨折
第 5 回	第 1 回中間試験（30%）
第 6 回	肩鎖関節上方脱臼
第 7 回	肩関節前方烏口下脱臼
第 8 回	肘関節後方脱臼
第 9 回	肘内障
第 10 回	第 2 回中間試験（30%）
第 11 回	肩腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷
第 12 回	ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲
第 13 回	膝関節（側副靭帯・十字靭帯・半月板）損傷
第 14 回	下腿三頭筋損傷・足関節外側靭帯損傷
第 15 回	期末試験（40%）

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	総合実技 I B	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技審査の出題項目に対応した施術実技を行う。 国家試験（特に必修問題）の対策を行う。				
到達目標	認定実技審査および国家試験における合格基準を達成する。				
成績評価	中間試験 60% (30%×2 回) 期末試験 40%				
使用教材	柔道整復学・理論編 (社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂) 柔道整復学・実技編 (社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂) 認定実技審査要領および中和式マニュアル				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。				

回 数	授業計画
第 1 回	骨折の復習
第 2 回	脱臼の復習
第 3 回	第 1 回中間試験 (30%)
第 4 回	軟部組織損傷の復習
第 5 回	軟部組織損傷の復習
第 6 回	第 2 回中間試験 (30%)
第 7 回	総復習
第 8 回	総復習
第 9 回	総復習
第 10 回	国家試験必修問題対策
第 11 回	国家試験必修問題対策
第 12 回	国家試験必修問題対策
第 13 回	国家試験一般問題対策
第 14 回	国家試験一般問題対策
第 15 回	期末試験 (40%)

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	前 期
科目名	総合実技 II A	科目の別	学 科	単位数	1 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30 時間
学修内容	認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 実務に向けた総合学習を行う。				
到達目標	固定法を行うことができる。 各骨折、脱臼について説明することができる。				
成績評価	授業内に行う確認試験にて評価を行う (前期：3回)				
使用教材	授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 包帯固定法：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	内容説明 絆創膏固定① 鎖骨骨折
第 2 回	絆創膏固定② 肩鎖関節脱臼
第 3 回	シーネ固定① ミッテルドルフ
第 4 回	シーネ固定② コーレス骨折、肘関節脱臼
第 5 回	シーネ固定③ アキレス腱、下腿骨幹部
第 6 回	第 1～5 回の確認
第 7 回	アルミ副子固定① ボクサー骨折
第 8 回	アルミ副子固定② 第 2 PIP 関節脱臼
第 9 回	厚紙副子固定① 肋骨骨折、肩関節脱臼
第 10 回	厚紙副子固定② 足関節捻挫
第 11 回	第 7～10 回の確認
第 12 回	テーピング固定① 膝関節、足関節
第 13 回	テーピング固定② 足関節
第 14 回	テーピング固定③
第 15 回	第 12～14 回の確認

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	総合実技 II B	科目の別	学 科	単位数	1
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 実務に向けた総合学習を行う。				
到達目標	固定法を行うことができる。 各骨折、脱臼について説明することができる。				
成績評価	認定実技模試と認定実技審査の結果を元に評価を行う				
使用教材	授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 包帯固定法：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第 1 回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第 2 回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第 3 回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第 4 回	絆創膏・テーピング固定練習
第 5 回	絆創膏・テーピング固定練習
第 6 回	絆創膏・テーピング固定練習
第 7 回	認定実技模試前総合復習
第 8 回	模試反省改善点の確認
第 9 回	総合復習
第 10 回	総合復習
第 11 回	総合復習
第 12 回	総合復習
第 13 回	総合復習
第 14 回	総合復習
第 15 回	総合復習

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	3 年	学 期	後 期
科目名	外傷予防	科目の別	実 技	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	○ 有・無	時間数	30
学修内容	競技者・高齢者に発生する外傷の特徴と、その予防について学習する。				
到達目標	競技者と高齢者に発生する外傷の特徴を理解し、説明することができる。 外傷を予防するための方法を適切に指導することができる。				
成績評価	定期試験 50% 中間試験 50%				
使用教材	競技者の外傷予防：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復師と機能訓練指導：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂				
留意点	柔整理論の各論で学習した内容が含まれるため、復習して授業に臨むこと。 30 時間の内訳は、「競技者の外傷予防 15 時間」、「高齢者の外傷予防 15 時間」で実施する。				

回 数	授 業 計 画
第 1 回	競技者の外傷予防 運動生理学の概要
第 2 回	競技者の外傷予防 運動生理学の概要
第 3 回	競技者の外傷予防 概論・外傷の発生原因 外傷の予防対策
第 4 回	競技者の外傷予防 メディカルチェック 評価と判定
第 5 回	競技者の外傷予防 コンディショニング方法
第 6 回	競技者の外傷予防 コンディショニング方法 種目別の外傷予防
第 7 回	競技者の外傷予防 種目別の外傷予防
第 8 回	競技者の外傷予防 成長期の外傷予防、高齢者の外傷予防 高齢者の特徴
第 9 回	高齢者の外傷予防 受傷メカニズム
第 10 回	高齢者の外傷予防 ロコモティブシンドローム / サルコペニア / フレイル
第 11 回	高齢者の外傷予防 転倒予防
第 12 回	高齢者の外傷予防 機能訓練
第 13 回	高齢者の外傷予防 運動と要点
第 14 回	高齢者の外傷予防 運動と要点
第 15 回	高齢者の外傷予防 運動と要点

2023 年度 授業計画

		科の種別	柔道整復科 II 部		
		対象学年	2～3年	学 期	通 年
科目名	臨床実習	科目の別	実 習	単位数	4
担当教員	戸崎素成	実務経験	有	時間数	180
学修内容	学校で学んだ事を、臨床現場で活用できるようにする。 患者さんとのコミュニケーションをできるようにする。 接骨院実習で遭遇した症例を振り返り、実習時の対応について妥当性を検討できる。				
到達目標	接骨院業務の流れを覚える。 評価と施術ができる。 レポートおよび発表を通じて第三者に客観的データとともに議論できること。				
成績評価	校内臨床実習と校外臨床実習を勘案して評価する。 評価割合は3：1とする。				
使用教材	臨床実習の手引き				
留意点	臨床実習 4 単位 180 時間のうち、1 単位 45 時間分を校外臨床実習として行う。 校外臨床実習のうち、1 単位 45 時間を 2 年生学年末休業中と 3 年生夏期休業中に実施する。				

授業計画（学修内容）

基礎実習

- 1) 柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける
- 2) 医療面接の実施
- 3) ROM、MMTなどを計測、評価の実施
- 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施
- 5) 治療機器の効果、禁忌の理解
- 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮

【見学実習】 環境準備、受付業務、患者さんの誘導を実施

【体験実習】 患者として施術を受け、グループディスカッションの実施

患者さんに対する対応

- 1) 患者に対して適切な対応ができる
- 2) 患者の抱える問題点に共感できる。
- 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。

施術録作成・症例検討

- 1) 施術録の記載
- 2) 症例検討の実施

保険請求（受療委任の手続き）

- 1) 手続きの意義
- 2) 記載方法の実施